

みず・まち・自然 エンジョイ!米子

広  
報

# よなご

12

2021 December

15 2021

◎特集

## こども総本部スタート!



◎特集

# こども総本部スタート！



ふれあいの里 (錦町)

ふれあいの里って  
どこ？



子どもの成長を

切れ目なく支援します

子育てをより効果的に支援するための新たな組織『こども総本部』が12月に設置されます。これまで点在していた子育て支援に関する部署が『ふれあいの里』（錦町）という施設に集まり、より一体的に子育て支援に取り組みます。

今回は、『こども総本部』設立の背景や目的、そして新しい体制について紹介します。また産婦人科医の見尾先生と伊木市長が、米子市がめざす「子どもを生き育てやすいまち」に向けた今後の展望について語りま

## どこに行けば良いかわからない？ こども総合相談窓口があるから迷わない！

どの窓口に行けばいいかわからない場合は、「こども総合相談窓口」をおたずねください。スムーズに担当部署につながります。



### 私たちがサポートします

こども総本部の各課をご紹介します。

#### こども相談課



いつでも対応できるよう、情報共有を欠かしません。

#### こども政策課



各部署と連携しながら、子育ての政策を調整します。

#### こども支援課



手続きについて、わかりやすく丁寧に説明します。

#### こども施設課



保育所や学校と一緒に、施設運営に取り組みます。

#### 学校教育課



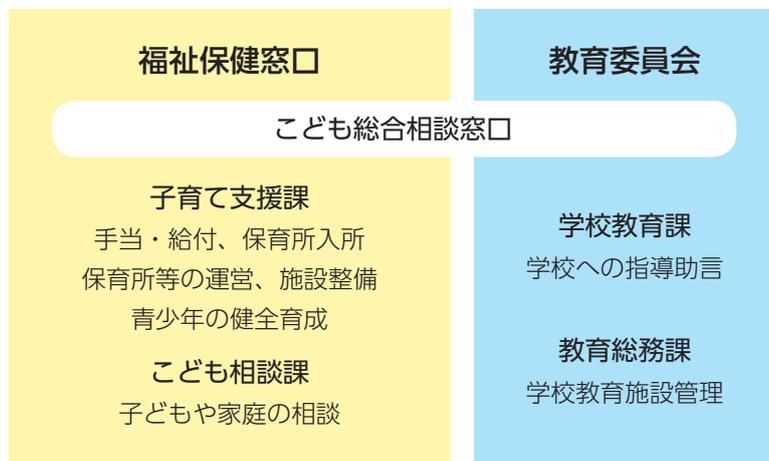
就学に関する不安や困りごとに、親身に対応します。

## 福祉保健と教育の一体的支援

子どもを授かり出産してから成人するまでの間、子育てにはさまざまな段階がありますが、子どもを育てるための一連の流れでもあります。これまでの米子市の体制は、福祉保健の窓口と教育の窓口が分かれており、内部調整に時間がかかることや、利用者にとって子育ての段階や内容で窓口が変わるなどの非効率な面がありました。

より効果的な子育て支援を実現するため、子育てに関連する部署を『ふれあいの里』に集約し、福祉保健と教育が一体となり、『こども総本部』として取り組みを進めます。

### 今まで福祉保健と教育の窓口が分かれていた



### これからは一体的な支援体制に





特別  
対談

ミオ・ファティリティ・クリニック  
院長

見尾 保幸 先生

米子市長

伊木 隆司



# 子どもを産み育てやすいまちへ



見尾 保幸 先生

医学博士。日本産科婦人科学会 専門医、母体保護法指定医師、日本生殖医学会認定 生殖医療専門医。米子市車尾の産婦人科医院「ミオ・ファティリティ・クリニック」の院長として、子どもを望む多くの人々に寄り添ってきた。

『子どもを産み育てやすいまち』に向けて、今後米子市に求められるものは何でしょうか。生殖医療の第一線で活躍する産婦人科医・見尾先生と伊木・米子市長との対談から、米子市の将来像について考えます。

「昨年



産を自力で成し遂げられる期間は本当に短い。社会の在り方を考え直さなければ、少子化問題は根本的には解決しないとされています。

**伊木** とても大切なご指摘ですね。私は今の世の中が将来に対して希望を持ちにくい時代であることも、少子化の原因ではないかと思っています。日本の近現代で最も出生数が多かったのは、戦後のベビーブームです。経済的にはどん底だった時代に最も多く子どもが生まれました。将来に希望の持てる社会をいかに

作っていくかが我々の責務だと感じています。また、子どもを産み育てることの大変さが注目されがちですが、喜びや楽しみをもっと多くの人々に知ってもらうことも大切だと思います。

—このたび、こども総本部が設置され、より効果的に子育てを支援する体制が整えられました。今後、期待されることは何でしょうか。

**伊木** こども総本部は、今まで福祉保健部で担っていた子育て支援と、教育委員会を一つにした組織です。これまで一人の子どもに対して家庭のことは福祉保健部で、学校のことは教育委員会が対応してきました。これを一元化することで、効率的かつ効果的に子どもの課題を解決することが可能になります。それにより、教員の多忙感を解消し、教員が新たな教育課題に当たる時間を増やし、教育の充実につなげたいと思います。

**見尾** それは大いに進めていただきたいですね。加えて地域の中でも、子どもを見守れる仕組みがあるといいなと思います。核家族やひとり親の方もたくさんいらっしゃると思いますが、育児を全て一人ではないといけないというのは相当残酷なことです。皆さんが子育てを楽しめるように、いつでも手助けできる体制を整えていただきたいですね。

—子どもを産み育てやすい米子に向けて、今後の目標は何でしょうか。

**伊木** 子どもの遊び場を増やすことが一

つあると思います。子どもは「遊びの天才」といいますが、遊びの中で知恵を働かせ工夫することを覚えます。子どものころの遊びが、大人になってから楽しく生きる知恵や工夫につながると思いますが、しかし今、外で遊べる場所が少なくなっています。これまでも小学校や公園の老朽化した遊具を積極的に更新してきましたが、これからは外で力いっぱい遊べる環境を整えたいと思います。

**見尾** 自然の中での遊びは、子どもの身体能力を養うほかに、人間らしい優しさや、情緒豊かな人間性を育くみます。自然豊かな米子なら、そんな遊びがのびのびとできますね。

**伊木** 子どものころにいっぱい遊んで楽しい思い出をたくさん作った大人が増えるといいですね。「子どもは社会の宝」といいますが、ぜひ、子どもが主役のまちづくりを展開していきたいです。

**見尾** 子どもの元気な声がいっぱい聞こえるようなまちにしたいですね。

## こはく KOHAKU

今回紹介しきれなかった対談内容は、生活情報誌「こはく1月号」(フリーペーパー)に掲載します。Webからもご覧いただけます。

